

荒川区教育施設長寿命化計画の概要

計画策定の背景・目的

背景

- 区内の公共施設の床面積の約半分を占める教育施設は、建設後50年が経過した施設が約半分となるなど、今後、老朽化による大規模な改修や建替えの時期を迎える。
- 施設整備には多額の費用が必要となることから、これらの維持管理や需要の増加への対応等、施設整備をどのように適正かつ計画的に実施していくかが求められる。

目的

- 施設ごとの老朽化状況を適切に把握し、区総合管理計画に基づく80年程度の長期間にわたり建物を使用すること（長寿命化）を前提とした、中長期的な施設整備の具体的な方針・計画及び施設の継続的なメンテナンスサイクルを定め、併せてトータルコストの縮減・平準化を図る。

計画期間

【令和3年度～令和37年度】

教育施設の目指すべき姿

新しい時代の教育に対応した整備

- 時代に即した多機能かつ高機能な環境の確保、教育ニーズに応じた習熟度別学習や特別支援教育などに対応

安全安心で快適な環境整備

- 児童・生徒が多くの時間を過ごす学習及び生活の場であることから、施設の維持管理、防災・防犯機能強化や空調などの環境整備の充実

環境に配慮した施設整備

- 太陽光パネル設置やLED照明への改修による環境負荷軽減

地域の核としての機能

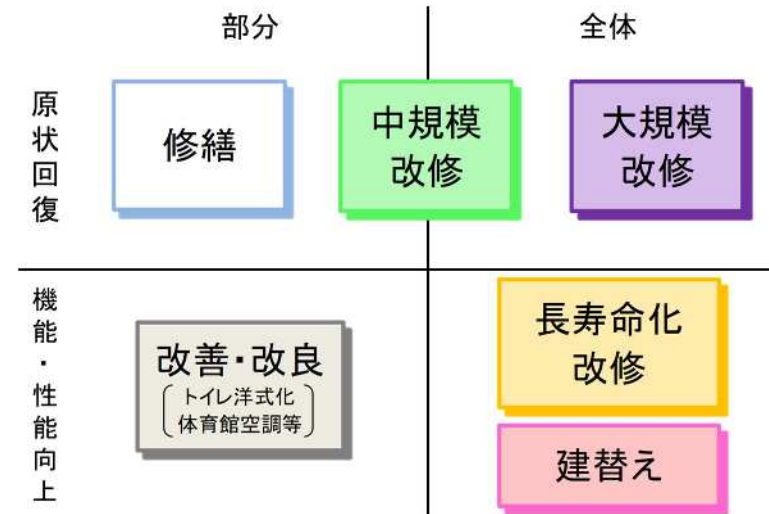
- 体育館やランチルーム等の地域団体の利用、放課後児童事業等への活用、非常時における避難所等、地域の核としての機能への期待

荒川区教育施設長寿命化計画の基本的な方針等

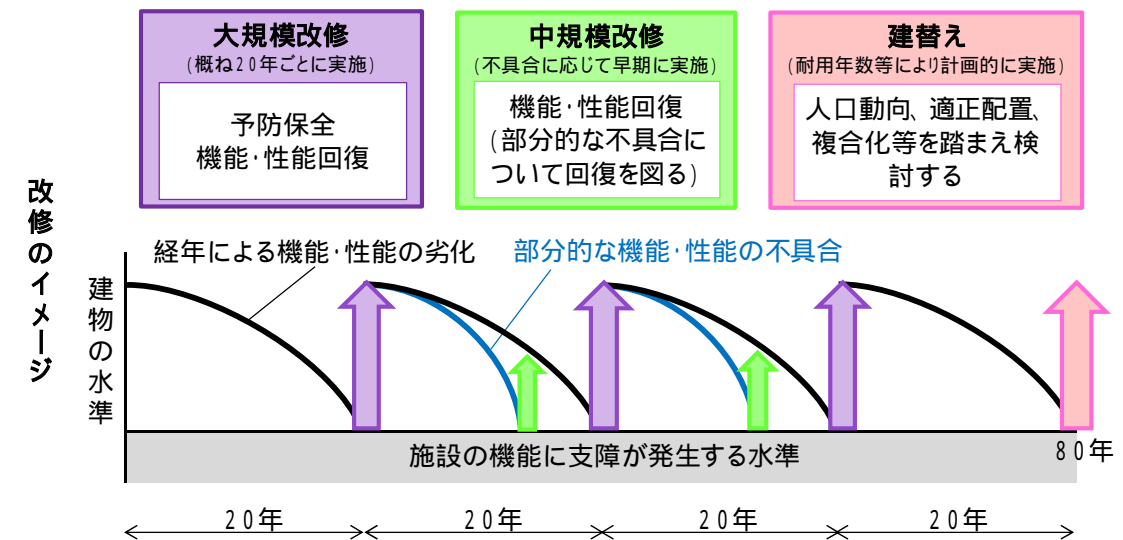
学校の建物や設備について、経年による機能・性能の劣化を抑制する予防保全による大規模改修及び中規模改修等を実施することで、長寿命化を実現し、教育環境を適切に維持管理する。

将来にわたって長く使い続けるためには、時代に合った機能や性能に適合させる改修が必要であり、大規模改修に合わせた整備に加え、都度、改善・改良等の整備により原状回復、機能・性能向上を図る。

【改修のイメージ】



【長寿命化ライフサイクルのイメージ】



必要に応じて、原状回復と、機能・性能向上を同時に実施する長寿命化改修について検討する。

財政支出平準化による長寿命化計画策定

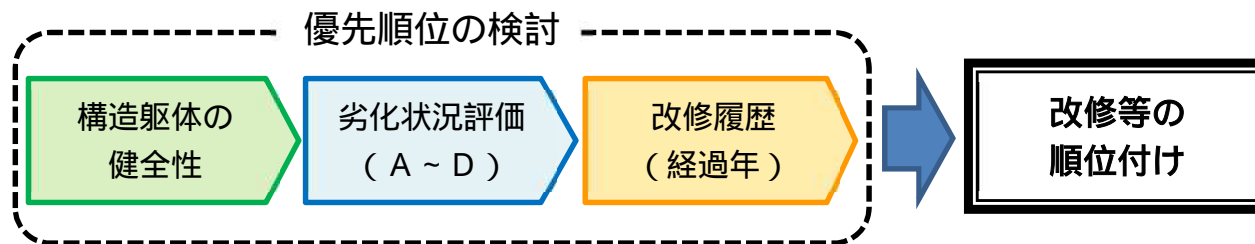
建替えや大規模改修は、多大な財政負担を伴うことから、財政支出の全体を縮減し、また、毎年度の負担を平準化することが不可欠となる。

このため、従来の耐用年数を65年とした施設関連経費【グラフ】と長寿命化を図り耐用年数を80年とした施設関連経費【グラフ】を比較する。

この経費試算では、昭和30年代から40年代の高度経済成長期における急激な児童・生徒数の増加に合わせて集中整備された27施設について、建替えを完了する令和37年までの35年間に要する総事業費を積算する。そのための改修及び建替えの考え方は、以下のとおり。

○ 改修の順位付け

- 「荒川区公共建築物中長期改修実施計画」では、大規模改修7項目について設定耐用年数により、改修の計画を策定しているが、本計画では、構造躯体を健全な状態に長期間適切に維持し、劣化の抑制及び早期回復を行う、予防保全による長寿命化を図っていく。
- 構造躯体の健全性及び劣化の状況を詳細に調査することで、劣化の状態が著しいものを優先的に改修順序の上位に位置付けるなど、各施設の大規模改修等の順位を設定する。



○ 同時建替え校数の決定

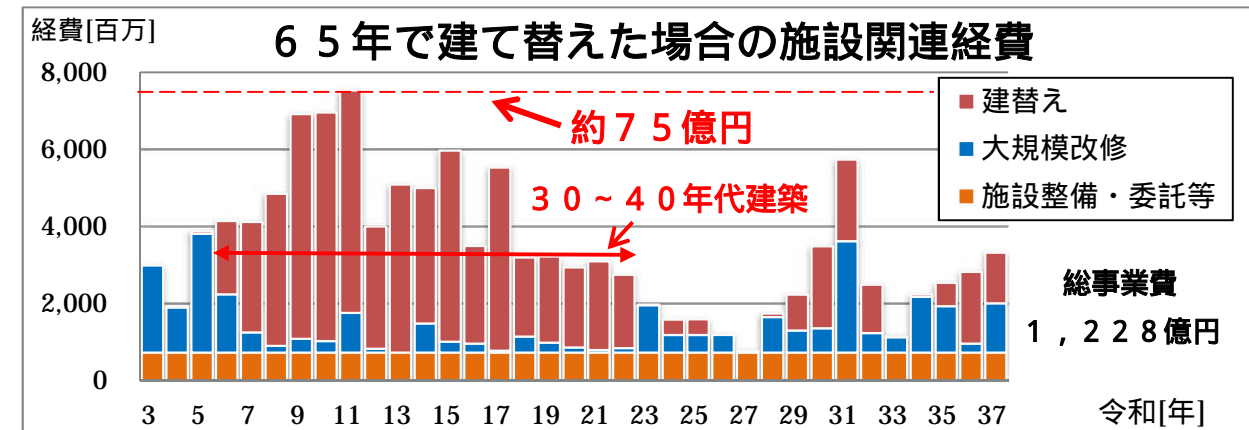
- 建替えの順位付けは、原則として築年数とし、施設の健全度等も勘案する。
- 財政支出の平準化のため、同時建替校数を3校とし、耐用年数を超えないよう、建替え時期の前倒しを行うなど、条件を設定する。

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
A学校	基本設計	実施設計	建替え				
B学校		基本設計	実施設計	建替え			
C学校			基本設計	実施設計	建替え		
D学校				基本設計	実施設計	建替え	
E学校					基本設計	実施設計	建替え

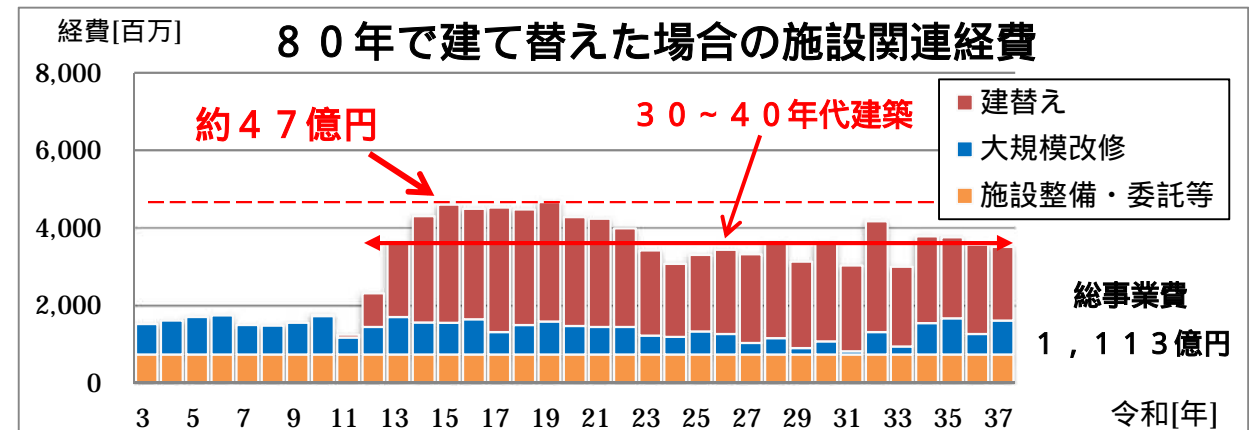
○ 財政支出平準化による効果

35年間の総事業費	1,228億円	1,113億円
年間事業費の最高額	75億円	47億円程度

【グラフ】



【グラフ】



児童・生徒数推計及び法令に基づく規模の見直し等、各学校の状況を踏まえ、改修・建替えの実施計画を検討する。